

評価の基準 (3:よく当てはまる 2:あてはまる 1:あまりあてはまらない 0:あてはまらない)

大項目	評価項目	保護者	教員	学校関係者	児童	分析 及び 改善へのアクション
1	主体的な学び (主体的な学び)	2.1	2.1	2.4	2.3	【分析】 - 継続して取り組んできた「読み先行の漢字教育」は、友だち同士で読みを聞き合う活動が協働的な学びのきっかけとなり、楽しんで学び合う姿が見られた。しかし、漢字の読みから書きにつなげるには高いハードルがあるようで、書きの充実が課題となっている。 - 学習の振り返りは各教科で定着してきているが、振り返りの内容を充実させ、成長を実感できる時間にしていく必要がある。 - 体系的な活動は、地域との連携のもと工夫され充実しているが、体験活動をより効果的に学びにつなげる学習計画を検討していく必要がある。 【改善へのアクション】 - 継続して取り組んできた「読み先行の漢字教育」の良さを活かしながら、田上の実態に合った取り組みとなるように書きの量を増やしていく。 - 毎時間の振り返りをため込み、自分の学びを見直す時間を作るなど、振り返りの行い方を工夫し、自分の成長を実感できるようにしていく。 - 各学年で行われている体験活動のねらいを再確認し、ねらいをより意識した取り組み内容を検討していく。
2	道徳教育の充実	2.0	2.3	2.5	2.5	【分析】 - 人権意識が低い。言葉使いが悪く、人の気持ちを考えることが乏しい。自分を振り返ることをせず、人を責めてしまう。 - 授業の内容が子どもたちの心に響いているのか見えにくく、普段の生活に生かされているのかどうか分からない。 【改善へのアクション】 - 環境づくりに取り組む。(心に響かせるもの、環境整備) - 保護者・地域への啓発。田人数のあり方 - 道徳研修を実施し、授業改善につなげる
3	体力づくり	2.0	1.9	2.5	2.4	【分析】 - 各学期ごとに体育委員会による体を動かすイベントを実行しており、たくさんの児童が参加できている。遊びの中で体を動かす意識が向上しているが、運動の苦手な児童の運動量の確保が課題となっている。 【改善へのアクション】 - 体育の学習内容に合った動きを取り入れた体育の宿題を教科部会で検討する。 - 運動の苦手な児童が「やってみよう」と思えるような場や教材の工夫を教科部会で検討、共有する。
4	学習指導の改善	1.7	1.9	2.4	2.4	【分析】 - 昨年度から取り組んできている田上小スタンダードは算数だけでなく全教科で意識した取り組みが行えた。校内研究では、田上小スタンダードの中でも「めあて」と「振り返り」のつながり意識した授業展開を検討し、「なりたい自分」(学びに夢になっっている姿)の実現を目指した授業実践が行えた。各学年で目指す子どもの姿を共有することができた。 【改善へのアクション】 「ICT活用」 - 田上小の強みである「ICT」を活用した授業実践を充実させる。また、授業導入場面での基礎学習や学習理解を深める視覚支援として活用することで、誰もが自ら学びを進めていくことができる土台をつくる。 「ペア学習」 - 学び合いの基本となる「ペア」での活動を年間を見通して充実させていく。 「クラス会議」 - クラス会議の実装だけでなく、クラス会議の実践の考え方をもとにした「心理的安全性」を高める学級経営を目指す。 「田上小スタンダード」 - 校内研究を軸に田上小スタンダードをさらにレベルアップさせる。特に、各学習活動における教師の役割の明確化し、成長実感を得られるように「振り返り」を工夫する。
5	家庭・地域との連携	2.1	2.1	2.8	2.4	【分析】 - 学校からの情報発信や連絡について、tetoruを導入したことで、保護者のスマートフォンに直接情報を届けられることができ、円滑化・効率化を図れた。 - 学校ホームページで、学校だよりの発信に努めたが、「校舎の窓から」のコーナーは更新が滞ってしまった時期もあった。 1学期末の学級懇談会では、学校の教育方針や教育内容を説明したり、理解していただく機会を持つことができた。 【改善へのアクション】 - 少数だが、tetoruに未登録の家庭もあるため、継続して登録を促し、確実に連絡が届くようにする。 - 学校ホームページの「校舎の窓から」のコーナーは、全教職員が更新できるように、年度当初に研修をする。
6	安全・安心な学校づくり	2.1	2.2	2.8	2.6	【分析】 - 避難訓練や防犯教室・交通安全教室など、各学年の発達段階にあった内容で児童の安全に対する意識を高めることができた。今年度は、コミュニティースクール事業「田上小スタンプラリー」を実施することができ、家庭・地域・学校の連携ができた。 【改善へのアクション】 - 今年度同様、防犯・防災・安全に関する行事や教室を行い、自分事として参加できるような内容を検討し、より安全に対する意識を高められるようにする。子どもたちを中心に置いて家庭・地域・学校が連携したコミュニティースクール事業となるように、家庭・地域・学校で共に考える機会を継続して作っていく。
7	保幼小の連携	2.1	2.0	2.5	2.5	【分析】 - 保幼小の子どもたちの交流や、教員の出前授業等を実施するとともに、田人数や学びの提案を通して校務の共同研修を実施し、保幼小一体となった教育活動に努めている。 【改善へのアクション】 - 小小交流や小中交流、保幼小交流の活動内容を振り返り、園児にとっても児童にとってもさらに学びのある活動になるよう精査していく。 - 小中連絡会で話題に上がった、小学校のうちに最低限身につけてほしいこと(九九など)をしっかりと定着させて中学校に引き継いでいく。
8	生徒指導体制の充実	1.9	2.3	2.3	2.0	【分析】 - この項目は保護者の点数が低く、課題と捉えられている。10月に行った「生活と健康のアンケート」結果を「田上つ子通信」で保護者に伝え、子どもたちの現状や生活面での改善点を示せた。また、ゲーム依存等に関する生徒指導通信を発信し、意識を高めた。 - 高学年になると、テレビをほとんど見ない児童の割合が高くなっているが、それはテレビの代わりにスマホやタブレットを使って動画視聴を行っているためであると推測できる。 - 生活委員会を中心に全校に呼びかけ、クラスごとのめあてを考えたりしながら毎月の学校生活目標を意識できた。 【改善へのアクション】 - 夜遅くまで本を読んでいたたりゲームや動画視聴をしていたりして、学校でも眠そうにしている子が特に高学年で多く見られる。保健や家庭科の時間を使いながら早寝早起きや睡眠の大切さについての指導を行ったり、保護者と連携し家庭での過ごし方について協力を得たりしながら改善を目指していく。 - ゲーム依存等について情報モラル勉強会を開いているが保護者の参加率が低い。より多くの保護者に参加していただき改善につながるよう、通信等でさらに啓発していく。 - あいさつはほとんどの子から返ってくるようになってきたが、自分から明るいあいさつができる子がまだ少ない。来年度は児童会が中心となって、年間を通して全校で統一して取り組み目標を設定する予定をしており、自主的にあいさつする子が増えるような取り組みを子どもたちと考える。
9	特別支援教育	2.1	2.3	2.5	2.6	【分析】 - 対応が遅れてしまわないよう、「ペビリーフ」で情報共有をしながら、担任以外の複数の教師でも子どもの様子を確認すること意識して対応してきた。 - いじめの疑いがある事案は、直ちにいじめ対策委員会を開き、事案の掌握に努めた。加害が複数にわたる事案でも、複数の教員で丁寧に聞き取りや指導を行い、見通しを持って対応した。 「学校生活アンケート」の実施方法を見直し、教育相談で話す内容やメモの取り方を紹介したりして、教育相談の充実にも努め、普段から教師に思いを話せる関係づくりが進んでいる。 - 不登校傾向の児童に対して、こまめに家庭と連絡を取ったり、少年センターの方のアドバイスを交えたりしながら、学校外の場合別室登校、放課後登校など、その子に応じた対応をしてきた。 【改善へのアクション】 - 学校活動の時間や委員会が主体となった休み時間等の縦割り活動を今後も継続し、異年齢間で関わる経験を積むことで、自己有用感を高めていく。 - 不登校気味の子の対応が遅れてしまわぬよう、担任にこまめに声をかけて様子を確認したり、家庭訪問を促したりしながら、早期対応を継続していく。 - 子どもの様子で気になることがあれば、些細なことでも保護者と連絡を取り、家庭での様子を確認したりしながら対応していく。 - その際、マイナス面だけでなく頑張っていることなどプラスの面も伝え、何かあった時に保護者が相談しやすい関係づくりに努めていく。
10	教育の充実	2.0	2.3	2.5	2.6	【分析】 - 教職員に、年度当初に個別の指導計画作成の見通しを示したことで、計画的に保護者と連携してもらえるようになった。また、コーディネーターが継続的に入力し、組織的な支援となるようにした。 - 別室指導については、学級の様子や児童に伝えられるように選定を預かったことで、一日の計画を立てやすくなった。 - 引き続き、通級や別室、学級担任、支援員との情報共有を大切にして、効果的な支援のあり方を検討・実践してきた。 【改善へのアクション】 1年生の読み書きのつまづきをなくすために、コーディネーターが1学期にMMの実践をつまあげタイムに行い、学級担任も継続して実践してもらえるようにしていく。 - 別室指導については、スクールカウンセラーの意見を取り入れながら、個に応じた支援となるようにしていく。